



NEWS

新刊のお知らせ

9/18
発売!

『ブックフェスタ 本の磁力で地域を変える』

「ブックフェスタ・ジャパン2020」とマイクロ・ライブラリーサミットの記録集です。全国17都道府県で行われた165のイベントの中から貴重な講演を収録。合わせてマイクロ・ライブラリーサミットの全12カ所の活動報告も掲載。本を楽しむ小さな活動から、まちづくりに関わる知見まで、ライブ感いっぱいの一冊です。

執筆：橋爪紳也 / 岸政彦 / 吉成信夫 / 土肥潤也 / 森田秀之 / 原田マハ / 平賀研也 / 鋤柄大気 / 長塚隆 / 磯井純充他

発行：まちライブラリー

価格：2,000円(1,819円+税) ISBN978-4-908696-05-3



まちライブラリーHPよりご購入いただけます。



New!

まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。

開館日時など詳細は、まちライブラリーHP「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。

(No. は登録番号です)

NO. 835 (東京 豊島区)

まちライブラリー@みんなのふくろう食堂

本を通じて地域の方が出会い、つながるライブラリーです。社員食堂とフリースペースの一部を地域に開放し、本や絵本を読む場所の提供と貸出しを行っています。不定期に、絵本の読み聞かせと絵本に出てくるお菓子やパンを作る教室も開催。

・オーナー：特定非営利活動法人ワーカーズコープみんなのふくろう食堂

NO. 836 (富山 小矢部)

まちライブラリー@イーラボ

印刷会社の一角にできたまちライブラリー。本と一緒に駄菓子があります。2Fには1000冊をこえる本があります。ゆっくり本を読めるスペースもあります。

・Web：<http://www.yamasina-print.co.jp/>

・Facebook：

<https://www.facebook.com/ELABO.LiTaStudio/>

・オーナー：LiTa Studio ELABO 山科森



まちライブラリー@イーラボ

NO. 838 (埼玉 ときがわ町)

まちライブラリー@ときがわトカイナカ

ソーシャルシェアハウスに併設するまちライブラリー。コロナ禍のニューノーマル(新しい生活様式)として生まれたトカイナカ構想(都心から約1.5時間圏内)拠点でもあります。ここからどんな物語が生まれるか楽しみです。

・Facebook：

[埼玉トカイナカ構想、ときがわソーシャルシェアハウス](https://www.facebook.com/tokigawa-social-share-house/)

・オーナー：神山典士

NO. 839 (大阪 大阪市中央区)

ISまちライブラリーオフィス

本に囲まれた、居心地のいい空間に、3名限定のシェアオフィスが誕生!「ISまちライブラリー」のあるビルの7Fです。仕事や勉強、読書や思索にご利用ください。本の閲覧や貸出はシェアオフィス利用者限定です。

・Web：<https://is-library.jp/>

・Facebook：

<https://www.facebook.com/ismachilibrary>

・オーナー：一般社団法人まちライブラリー

NO. 840 (大阪 大阪市住吉区)

『てんてんとム〜シムシ』まちライブラリー

古民家をDIYし、えほんやモノづくりを通して街のひとたちとつながり、地域に発信していく場所づくりをしています。大人も子どもも赤ちゃんも楽しめるえほんを400冊揃えています。えほん好き、あつま〜れ!

・Web：<https://ehonbunko-tenten.business.site/>

・オーナー：イクセリョウジ

その他のお知らせ

・オーナーズフォーラム ブックフェスタ Special Version

9/23(木・祝)16:00~18:00

まちライブラリー@もりのみやキューズモールで開催&zoomミーティング

オーナーさん以外もzoomで参加可能なスペシャルバージョンです。

参加費：無料 申込み：machilibrary.admi@gmail.com

NO. 841 (栃木 小山)

まちライブラリー@ひかり堂

巣箱型の本棚には絵本や文芸書など、オーナーのおススメする選りすぐりの本が並んでいます。貸出しもできます。本と過ごす時間をまちライブラリー@ひかり堂でお楽しみください。

・Facebook：

<https://www.facebook.com/ehon.hikaridou>

・オーナー：小野寺ひかり

NO. 842 (兵庫 神戸市中央区)

まちライブラリー@神戸空港

神戸空港1Fにまちライブラリーを設置。新たなつながりや化学反応を1年間社会実験します。地域交流イベントなども開催予定。神戸全体がまちライブラリーになるきっかけとしても活用できればと思います。

・Web：<https://kobearport-library.club>

・オーナー：

まちライブラリー@神戸空港実行委員会 松浦大介

NO. 843 (香川 丸亀)

まちライブラリーあじさい

健康的なまちづくりを目指すコミュニティナースがマンションの一室に開設した「まちの図書室」です。「まちの保健室」や「子どもカフェ」も企画しています。医療人材によるコミュニティづくりに興味のある方、一緒に活動してくださる方もお待ちしております。

・オーナー：コミュニティナースまるがめ

新たな地平線をめざして～ブックフェスタとまちづくり～



イベントや各ライブラリーの情報はまちライブラリーHPから
<https://machi-library.org/>

「ブックフェスタ・ジャパン2021」と銘打って9月から10月にかけて、全国の人と本をつなぐイベントを、今年もオンラインを活用して開催することになりました。まちライブラリーが始まって10年が経つ中で、今回のメインイベントの拠点となる「まちライブラリー@もりのみやキューズモール」と「まちライブラリー@OIC(立命館大学大阪いばらきキャンパス)」は、共に開設から6年を迎えました。商業施設と、地域に開かれた大学のキャンパスの中のまちライブラリーという新たな試みであり、どちらも試行錯誤の6年間でした。

「まちライブラリー@もりのみやキューズモール」は、施設のコンセプトであるスポーツとまちライブラリーが、近隣の人をたくさん集める商業施設の要素として定着してきたように思います。その結果、今年のブックフェスタでは講演の一つの目玉でもある、スポーツと本をテーマにした議論を、ドイツ在住のジャーナリスト高松平蔵さんと大阪府立大学研究推進機構特別教授の橋爪紳也さんにさせていただくことになりました。施設に設置されたエアトラックを含めたスポーツに関する部分と、まちライブラリーの本の持つ世界の融合化が見えてきたとも考えられ、成熟してきてくれたなという実感があります。立命館大学とのつながりで言えば、昨年のブッ

ックフェスタ・ジャパンでは立命館大学大学院先端総合学術研究科教授の岸政彦さんにご登壇いただきました。今年は「まちライブラリー@OIC(立命館大学大阪いばらきキャンパス)」から、立命館大学政策科学部教授の桜井政成さんにご著書の『コミュニティの幸福論—助け合うことの社会学』(明石書店)を柱にお話しいただき、参加者との対談イベントを行うことになりました。こうして見てみると両拠点とも、単なる地域の居場所というだけでなく、それぞれの環境を活かした文化発信の場に成長しているという印象を受けます。

もう一つのイベント拠点となる長野県茅野市では、本を活かしたまちづくりの新たな試みを実践中です。実際にやってみると、まちライブラリーが地域の活力になることを理解してもらうことの難しさを感じながら、確かな手ごたえも感じています。まちづくりの一環なので、本が好きな気の合う人同士の集まりにするだけではなく、まちづくりに無関心だった人、むしろ背を向けていた人にも参加していただき、議論の場に入ってもらわなければなりません。まちの中には多様な人が住んでいます。たとえば通り一本をきれいにしようとしても、花壇があつたらいいと思う人もいるし、彫刻があつたらいいと言う人も

いるでしょう。それを同じ土俵の中で何がいかということにまとめていかなければなりません。熟成の時間が必要です。難しさも感じますが、そうした時にこそ新たな知見が得られるのではないのでしょうか。

大事なのは、従来の枠組みを越えてみようという少しばかりの勇気を持つ人とその気持ちを受けとめる人の存在です。人は日々の変化より、安定した生活や習慣などの保守的な行動を好みます。しかし、時には新たな人や行動を伴うちょっとした冒険も大事です。殻を少しばかり破ると新たな地平線が見えてきます。一步の前進が困難なら、半歩の歩みでも充分で、その視点の変化を与えるのもまちライブラリーの魅力だと思います。マサチューセッツ工科大学のアレックス・ベントランド教授が、『ソーシャル物理学「良いアイデアはいかに広がるか」の新しい科学』(草思社)という著書の中でアダム・スミスの「神のみえざる手」は、単に自由な市場がアイデアを生み出すだけではなく、コミュニティ内の仲間からの圧力による制約の中から生まれると指摘しています。つまり、人々が出会い、考えや感性を交換する中で、信頼や協力、堅牢性といった触発のエネルギーが生まれるのです。この視点から見ると、ブックフェスタは、まだ見ぬ

人や場所と出会い、それぞれの人にとって新しい地平線が見えることにより、それぞれの人の力をあげ、地域の魅力に転嫁し得る取り組みであるとも理解できます。ブックフェスタが皆さんにとってそうしたきっかけになれば、これほど嬉しいことはありません。

昨年、コロナ禍でオンラインを活用して行った「ブックフェスタ・ジャパン2020」が、この度、『ブックフェスタ 本の磁力で地域を変える』という書籍にまとまりました。たくさんの方が著者になっていますが、読み返してみると、各々の発言の深い意図が読み取れます。ぜひご一読ください。

新たなことには困難がつきものですが、だからこそ得られる視点や刺激があります。今年のブックフェスタもそんな機会になることを心から望んでいます。

2021年9月

まちライブラリー提唱者 磯井純亮
 連絡先 mail : MSJ00657@nifty.com